

『制限付き？』でもなお楽しい『南の島のラグーン・セーリング！』

ヨット部23回 真崎邦彦

南緯 13 度 50′、西経 171° に位置する南太平洋の島国サモアに、JICA シニア海外ボランティアとして2年半活動してきました。出発時には、OB 皆さんの激励を受け、私の専門『養殖』と言う分野でのこの国の発展を目指して、やれるだけの事をやってきたとっております。この2年半という年月は、私の高校時代のヨット部生活・入部から引退までと同じ長さで、サモアでもアピア（サモアの首都）・ヨットクラブに所属し、私の青春時代を彷彿とさせるかのように、本分のボランティア活動の余暇としてセーリングを楽しみました。今回は、全く環境・文化の違う国でのセーリングの楽しみについてお話ししたいと思います。

まずサモアの風について・・・： 南緯 13 度 50′ という赤道直下では、太陽が真上に来る雨の季節（12～3月）は、小さな島国全体が赤道無風地帯の中に入り込み、風は不安定で弱く、時折近くでサイクロン（熱帯性低気圧）も発生するため、暑い季節であるにも拘らずヨットクラブはオフ・シーズンになります。一方で太陽が遠ざかる雨の少ない乾季（5～11月）は、今度は島国全体がどっぷりと貿易風帯に入り込み、毎日判で押したように7～9m/sec.の東風（貿易風）が吹き、ヨットクラブはシーズン・インとなります。正にこの時期、何のためらいもなく毎日飽きるほど吹くこの風の中、セーリングを十二分に堪能できるわけです。

サモアの地形について・・・： また南の島国にはサンゴ礁が発達しているため、海岸線付近はリーフに囲まれたラグーン（浅瀬）となり、セーリングのできる範囲は浅瀬に阻まれ、センターボードがすぐにつかえるため、時間帯も日中満潮時前後の4～5時間と制限されることとなります。こんな訳で、シーズン中は風には恵まれるものの、場所や時間の制約を受けて、セーリングを楽しむという事になります。でも、ヨットにとっては風が命であって、エンジンさえ全開に出来れば、どんな楽しみ方だって出来るのです。

ヨットクラブについて・・・： もちろんセーリングを楽しむためには、基盤となるヨットクラブが、本当に気の置ける人達の集う組織でないと面白くありま



せん。私の所属していたアピア・ヨットクラブは、そう言う意味ではフレンドリーで、子供を中心として活動している楽しいヨットクラブであったと思います。フリートキャプテンのレイマ（Raema・女性）は、私と年齢もあまり変わりなく、何と云ってもセーリングに情熱があり、現役セーラーとして私や子供達とも競争してくれ、何時も笑顔でジョークを言いながら子供達や私達とも接してくれます。活動に使う艇はホビー・キャット（カタマラン）とレーザー、OPで、それぞれクラブで5艇、10艇、15艇位を所有し、会員は有料でそれらの艇を1年間借り、自分の艇として活動時に使用することが出来ます。有料と言っても、私の乗っていたレーザーで、1年間1万5千円位、会費と併せて2万円弱くらいが、1年間ヨットを楽しむ経費となります。

ここで、とあるクラブ・デイ（通常毎週土曜日がクラブ・デイです。）の活動を御紹介したいと思います。一年間のシーズンにおける毎週の活動計画については、シーズンに入る前の打ち合わせでほぼ決められており、毎週木曜日頃にその週の土曜の満潮時刻と集合時間や主な活動プログラムについて、E-Mailで連絡があります。毎週土曜日は時間になると皆集まり、笑顔で挨拶や近況報告をしながら、艇（フネ）を出し艀装を始めます。そして、大方の会員の艀装とレスキューボートの準備が出来た段階でレイマのブリーフィング、その日のセーリング活動が始まります。

この日は、2時間ほどのソーシャル・セーリングの後、ポイントレースを行うとの事・・・、私はこの日、セーリングに興味のある青年海外協力隊の若者を3名連れて来ており、交代で一緒に乗ってセーリングを体験させた後に、レースに参戦することとしました。風はいつもの東風、14～16ノット。日本では通常、初心者をディンギーに乗せるのにこの風（7～8 m/sec.）はかなり厳しいと思いますが、サモアでは十分楽しめるのです！その理由は、まず気温も水温も30℃前後と暖かい事、セーリングの場所はラグーンで浅く、波があまりたたない事と併せて、沈をしても大抵の場所は背が立つので、艇も横倒し以上にはならず、海に投げ出されてもさほど心配がないことです。この安心感はセーリングを楽しむ上では大きな要素で、初心者の若者達は、プレーニングして頭からスプレーを浴びながらもキャー・キャー歓声を上げて楽しんでくれます！一緒に乗って上手くサポートすれば、初日からティラーを握らせて、カッ飛んで行くことも可能です！これで、セーリングファン3名ゲット！てな、感じ・・・

その後、ポイントレース参戦！クラブには、数名まあまあ走れる17・8歳の子がいますが、レベル的にはそれほど



フリートキャプテン・レイマ

高くありません。でも、私とは良い勝負です！特に風速が6 m/sec.を超えると、体重60 kg、年齢63歳の私にとっては、クローズホールドでヒールが起きず、気力も続かず、こればかりは48年のセーリング経験も役に立ちません・・・ようやく上マークに2番手位でたどり着くと、マーク回航時にオーバーヒールさせてしまい、マーク・タッチ！後続の子供達からはやし立てられ、焦って1ターンしようとする、あえなく'Capsize（沈）'！こんなことを何回繰り返したのでしょうか・・・でも、風速6m/sec.以下では負けません！それと、6 m/sec.を超えていても、フリーのセーリングでは負けません！

時々クラブでは、ビーティングのコースが広く取れないために、2チームに分けて、リーチングでスタートして沖のマークを回り、クォーターで返って来るリレー・レースをします。去年、私達の住むウポル島の反対側のリゾート地、タファタファビーチに行ってキャンプをした時にこのレースをして、私はレイマのチームに勝ってしまいました。それ以来、私はクラブの中で一目置かれる親父セーラーとなり、2017年度のヨットクラブ・シリーズチャンピオンにも選ばれ、私のボランティア活動にもまして、充実した余暇のセーリングライフを楽しむことが出来ました。

セーリング、場所が変わって環境が変わっても、楽しみたいと思う人達の心があれば、何処でもそれなりに楽しめる。そしてそこには、セーリングを楽しみたい人達の少し熱い心の輪が生まれ、その人達との心の繋がり、結構自分自身の人生をも豊かにしてくれるものだ。そんな事を実感した2年半でした。

